

# 福島の子小学生時代からバッテリー

## 光星の秋元投手と鈴木捕手

### 「甲子園でもコンビを」

兵庫県西宮市の甲子園球場で開催されている第98回選抜高校野球大会に出場中の八戸学院光星の投手秋元尊と、捕手鈴木悠斗は小学生時代から共に野球に打ち込んできた仲だ。5年生の頃からバッテリーを組み始め、中学時

代には全国大会3位になったことも。チームは19日の初戦を突破し、24日には近畿地区代表の滋賀学園との2回戦へ。2人は、憧れの舞台でもコンビを組みたいと意気込む。

【15日に本記】



甲子園でバッテリーを組むことに意欲を見せる秋元尊(右)と鈴木悠斗(左)。大阪府

秋元は福島県川内村出身。東日本大震災後、埼玉県などでの避難生活を経て、3歳の時に帰郷した。小学4年になると、親の事情で県外から移住してきた鈴木と「船引スポーツ少年団クラブ」(福島県田村市)でチームメイトに。間もなく2人はバッテリーを組むようになった。中学時代は「南東北ヤングベイスボールクラブ」でプレー。右のエースだった秋元を、鈴木が捕手として支えた。3年秋の「グランドチャンピオン大会」では、息の合ったコンビとして試合ごとに力をつけ、チームを全国3位へと導いた。

高校進学に当たり、鈴木が「練習の雰囲気と充実した野球施設に引かれた」と八戸光星を選択。もう一度バッテリーを組もうと秋元を誘い、そろって東北屈指の強豪の門をたたいた。どちらも負けず嫌いの性格。

鈴木は「専らトレーニングなどの記録で励まされると悔しいし、自分が上回れば尊が『くそ』となる」。切磋琢磨の日々を送りながら、共に成長してきた。昨秋、鈴木は公式戦の全9試合に出場。持ち味の強肩を生かし、盗塁は一度も許さなかった。一方、秋元は東北大会決勝の花巻東(岩手)戦で、3点ヒートアップの五回から2番手として登板。2回を1安打無失点に抑える活躍を見せた。

(千葉達也)